

令和6年度 第1回松山地域協議会会議録

日 時 令和6年6月20日（木） 午後1時30分～3時00分

場 所 松嶺コミュニティセンター

出席委員 13名

平 向 邦 夫 木 村 美津枝

今 井 一 博 岩 崎 彩 石 川 百合子 清 野 淳

富 樫 とも子 荘 司 東 一 加 藤 恭 子 齊 藤 薫

田 村 敬 子 井 上 亜紀子 荘 司 徳 由

欠席委員 2名

小 林 正 利 櫻 田 憲 彦

酒田市出席者

松山総合支所長 鈴木 啓 介

松山総合支所長補佐兼地域振興係長 佐 藤 賢 治

松山総合支所長補佐兼建設係長 加 藤 弘 樹

松山総合支所市民係副主幹 高 橋 美 津

1 開 会

○開会の言葉 佐藤支所長補佐

2 会長あいさつ

○平向邦夫会長よりあいさつ

3 議事録署名人の指名

○会長より議事録署名人に、齊藤薫委員を指名

4 議事

(1) 令和6年度松山総合支所管内の予算について（報告）

（井上委員）

学童の支援員をしている。松山健康福祉センター男子トイレの洋式化は本当にありがたい。今の子は和式トイレを使えないため、健康福祉センターの洋式トイレの数も限られていることから失敗する子もいた。3月、学童には影響はなかったが、健康福祉センター内にあるデイサービスで大規模な漏水があり大騒ぎとなった。建物も老朽化してきているので安全面も考慮し

ていただきたい。

(支所長)

学童男子トイレの洋式化に関しては松山民生委員・児童委員協議会の会長も務めていただいている平向会長からも強く要望していただくなど協力をいただいた。デイサービスの漏水修繕に関しては補正予算で要求する予定である。今後も財政当局には必要な予算については継続して要求をしていく。

(荘司東一委員)

旧松山中学校の跡地利用の件で、屋内スケートリンク設置や校舎の解体について話せる範囲で教えていただきたい。

(支所長)

4月召集議会に、旧松山中学校体育館への仮設屋内スケートリンク整備に係る設計費用の補正予算を上程し認めていただいた。昨年度をもってスワンスケートリンクを閉鎖したことから、県に県営屋内スケート施設整備の要望を行っており、それが出来るまでの間仮設として設営する判断に至った。工期は令和8年1月までで、今年度は主に設計を実施する。令和7年2月から工事をはじめ、令和8年2月のオープンを目指している。また、6月定例議会に旧松山中学校の校舎解体費用を上程し認めていただいた。当初はすぐ解体する計画ではなかったが、工事と一緒にすることで国から地方交付税として7割入ってくる有利な過疎債が活用できるため、いずれは解体が必要であることから、今回合わせて行うという判断に至った。令和7年度末までの2か年の事業を予定している。

(荘司東一委員)

屋内スケートリンクの開設と合わせて、長年の懸案だった校舎も解体していただけるということでありがたく感じる。ぜひ公園化するなどし、人の集まる施設にしてもらいたい。

(富樫委員)

里仁館グラウンドの防球ネットとポールの撤去が、ようやく県で予算化されたが、工事はいつから始まるのか。

(支所長)

里仁館は県の施設であるので、以前より老朽化した防球ネットとポールの撤去を県に要望してきた。先日、県教育事務所よりようやく予算化されたとの連絡はあったが、工事の具体的な時期は示されていない。桜の木やつつじ等の景観が良くないところもあるので工事と一緒に伐採してもらうよう、県当局に申し入れているが詳しい情報は入っていない。

(富樫委員)

子供達の通学路になっているので迂回させるなど注意が必要。決まったら早めにお知らせいただきたい。

(荘司徳吉委員)

場外馬券場周辺の美化活動は中央競馬発売のからみでやるのか。また、昨年クラフトフェアに行ったがとてもよかった。実行委員会はどのような方がやっているのか。

(支所長)

美化活動は旧松山町時代に施設を誘致した時からずっと行われていて、場外馬券発売所交付金の中から地元の自治会にお願いし委託業務として環境整備を行っていただいている。

クラフトフェアは齊藤薫委員が会長を務めている松山にぎわい創出実行委員会において、協力いただける方を募り実行委員会方式で実施している。

(2) 令和5年度市長報告会について(報告)

(平向会長)

以前は、市長報告会の内容は公表されていなかった。昨年より資料として配付していただきありがたいと思う。さらに今年度からは矢口市長から回答をいただけることになった。ただ、その回答が昨日届いたということで事前に配付できなかった。本日配付した回答の内容を見ながら意見をいただきたい。先ずはさんさんの最近の状況について支所長から説明いただきたい。

(支所長)

昨年の自治会連合会総会の際に、前丸山市長より地元企業での活用がほぼ決まったと発言があった。その後、紆余曲折があってその企業の活用は白紙に戻った経緯がある。ただ活用の見込みがなくなったとの正式回答はないので、引き続き協議を重ねていきたい。そのほかにも別の企業が現地で内覧をしているケースもあるが、活用まで至っていない。市長も所信表明の際に何とかしたいと申しているので、引き続きがんばっていく。明るい話題を提供できず心苦しいがご理解をいただきたい。

(清野委員)

市長より提言書に対する回答をいただけて大変よかった。旧3町地域で集まって3つの力を合わせて提言につなげていく場を設けていただき、ありがたいと思う。3地域には優れた自然の環境資源がある。各3町地域と協同で提言していくと強力な力になると思う。旧3町地域での具体的な話し合いはないのか。

(支所長)

昨年度開催した、3協議会正副会長会議において、3協議会まとまって市長に提言してはどうかという動きがあり、合併当初に支所地域にのみ存在した地域づくり予算の復活を認めてもらってはどうかという意見がでた。地域づくり予算に関しては、市長報告会において平向会長からの発言に対し、市長からは他の地域とのバランスを考え難しいとの考えが示された。正副会長会議は、必要に応じて開催することになっている。一つにまとまって提言したほうがより効果的だという考えがあれば、正副会長会議の中で検討され決定していくものと考えている。

しかしながら、現状ではそのような動きはない。

(平向会長)

昨年度の正副会長会議では協同で出すことで強い提言になるのではとの意見が出たが、旧3町地域それぞれ抱えている課題が違うため、そこまでに至らなかった経緯がある。

(清野委員)

声ある声をひろって発言できる機会は今後とも必要。毎年同じ提言が出ているということは「検討する」から次に進んでいない。もう一歩進んでもらって「いつやるのか」会長副会長から声をあげていただきたい。

(木村副会長)

自分は各地を転々としてきたが、松山が人間にとって生きるにはいいところだと思っている。不便なところ等の条件を取っ払って、生きることだけ考えれば一番だと考えている。

何とかこの地域をよくしたいからみんな集まっている。共通項はあるはずなので、3協議会まとまっただけの提言はありだと思う。

市長報告会でも防災について発言させてもらった。なかでも現在の防災無線はとても不便である。地震の時には鳴ったが火事の際は鳴らなかった。松山町時代の戸別受信機の方が情報を得るにはとてもよかった。何を言っているか分からない防災無線が外で鳴っているだけでは人を恐怖に陥れるだけ。旧3町地域どこも思っているはず。何とかならないものか。

(平向会長)

防災無線のデジタル化は地域のためにはなっていない。3地域同じ意見である。提言の項目に入れてもいい位だと思っている。先日起きた大きな火事は分からなかった人が多い。大きな課題である。

(齊藤薫委員)

イオンモール三川の無料シャトルバス路線の延伸について回答がない。具体的な考えを聞きたい。

(支所長)

提言ではデマンドタクシー余目線を縮小してイオンモール三川の無料シャトルバス路線を延伸してもらいたいという提言だったので、都市デザイン課ではデマンドタクシー余目線の縮小に関してのみ回答している。イオンモール三川の無料シャトルバスの運行については企業判断になるので、行政が答えることではないといった所管課の考えである。

(平向会長)

デマンドタクシー余目線については、地域の考え方を集約して余目線を作ってほしいと要望して開設された。その後、都市デザイン課で住民からの意見により考えていることはあるのか。

(支所長)

地域要望があつて苦勞して開設した余目線なので、さらなる利用促進を図ってもらいたいという考えだと理解している。

(3) 令和6年度地域協議会の進め方(協議)

(支所長)

今日も含めて4回開催する予定となっている。次回では提言のテーマの洗い出しをしていただきたいと考えている。3回目は具体的な提言内容を、4回目は提言書の内容をつめていくといった流れで考えている。昨年度の協議会などを通じて、当地域にとって大きな課題は公共交通と買い物対策であると認識したところである。支所では今年度、自治会の協力をいただき、公共交通対策・買い物対策に関して実態を把握するため、全戸を対象としてアンケート調査を実施したい。7月30日に自連協の研修会が予定されているので、そこで依頼して、8月中に実施し回収までしたい。その結果を集約し、次回の協議会で皆様に結果の報告とそこから見える課題や提言など洗い出すことができるかと思っている。皆様より進め方について、ご意見をお聞かせ願いたい。

(今井委員)

今説明のあつたアンケート調査の結果を吟味して提言活動につなげられたらいい。

(岩崎委員)

要望を上げると多く出すぎると思うので、アンケートのなかからより多くある意見を提言に持っていける形にしたほうがいい。流れも支所長の説明のあつた通りでいい。

(石川委員)

地域の声は伝えないといけない、提言を続けていくべき。松山にはいいところがいっぱいある。いいところをひろって何かできることを模索していけばいいと思った。

(清野委員)

自然環境・人・文化、それらの良さを延ばし、PRする観点で提言につなげていければ。

(富樫委員)

一番困っているのは何か。高齢者世帯になっているところは買い物が不便。高齢者だけが多くなってきているのだから、その意見を吸い上げて発信していく必要がある。このままいったらどうなるのか不安である。生活に密着したような、ここを何とかしてほしいといったことを地域からひろって、提言していく必要がある。今の提言内容だと市からの回答が毎回同じになっているので、提言の内容を変えていく必要もあるのではないか。

(荘司東一委員)

テーマを絞って進めていく必要がある。委員の皆様は関係団体や組織の代表として参加されているので、その中でもテーマを検討していただき、1ないし2テーマを持ち寄っていただければ円滑に進むのではないか。

(齊藤薫委員)

委員の任期はあと1年。また人が変わり課題も含めてやり直しとなり、同じテーマでまた話し合うことになってしまう。そうならないように冬に総括として地域振興を語る場として、もう1回開催してはどうか。

(田村委員)

高齢者対策は出ている。今度は若い子育て世代対策を考えてはどうか。運動会もなくなって、地域で顔を合わせる機会も減ってきている。若い人と高齢者の交流に関することをとり入れてははどうか。

(井上委員)

アンケートを主にしてテーマを決める、提案のあった流れでよい。

(荘司徳吉委員)

アンケートをとってもらえるとありがたい。南部地区でもアンケートを行ったが困っている人はほんの一部だった。地域全体になれば数が集まり、具体的に話ができると思うので進めていただきたい。いいところを発信していくのをどうしたらいいか。問題点とどうやって希望をもってやっていけるか、この2点について並行してやっていただければ。

(平向会長)

アンケートは買い物支援と公共交通となっている。ほかに提言したいテーマがあれば次回まで考えてきていただきたい。

5 その他

(今井委員)

防災無線は、屋外拡声器と防災ラジオでは発信元が違うと聞いたがどうなっているのか。

(佐藤支所長補佐)

防災ラジオについて、緊急時に防災無線の放送をハーパーラジオの放送に割り込み、特殊な起動信号を発信してラジオを自動起動させている。性質上、地域を限定することが出来ずに市内一斉が原則となる。そのため法律により割り込むには一定の条件があるため、特定の地域を限定した熊や火災などはラジオに割り込むことはできない。支所管内の個別受信機から防災ラジオへの切り替えに関しては当時より課題だといわれてきた。この手法に踏み切ったということは、アナログ電波が使えなくなるにあたりデジタル化を進めるためには、防災ラジオしかなかったのだと思われる。

(田村委員)

試験放送時、防災ラジオのボリュームが大きすぎる。急に最大で鳴るのでびっくりする。

(佐藤支所長補佐)

ボリュームに関しても、ラジオの起動信号を受信した際は、緊急事態が起こったことを周知することが目的のため、最大になる仕様になっているため調整はできない。

(田村委員)

外の防災無線は何を言っているのか分からない。

(佐藤支所長補佐)

危機管理課では、外で何か鳴っていると思ったら、身の危険が迫っていると判断し、TVやラジオ、市公式LINEやホームページ等により情報を収集する癖をつけて欲しいと市民の皆様をお願いしている。

(平向会長)

仮設スケートリンクの開設について、3月の地域代表者等への説明会の際には、まわりの立木等の整備も要望されたが、その際には解体は予定していなかったので予算には入っていないとのことだった。今回の解体予算には入っているのか。

(支所長)

立木の整備は解体工事費には直接計上されていないが、工事に支障があれば伐採するものと思われる。あの辺は市有地となっており、市が適切な管理をしなければならないので、地域等から要望があったら所管課へ伝え適切な管理に努めていく。

6 閉 会

(平向会長)

これで第1回松山地域協議会を終了する。円滑な議事進行に協力を賜り、感謝申し上げます。

(佐藤支所長)

次回の地域協議会の日程ですが、買い物実態調査のアンケートの集計が終わる9月頃を予定している。